

QSK にぬふあぶし

No.296

ね
子の方向の星



地域活動支援センターミッドリンク閉所のお知らせ

～ウリムとトムミムをバッグに入れて～

増山 幸司

パウロ・コエーリョの『アルケミスト』は、少年の宝探しの物語である。
スペインに暮らしていた羊飼いの少年は天啓てんけいに導かれて旅をする。

過去にこの本をぼくに勧めてくれた人が二人いて、一人は後に奥さんになる人で、もう一人はひらたつくなお平田嗣尚氏だった。

宇宙人・平田氏は2006年から、沖縄市地域活動支援センターミッドリンクの所長を務めてきた。それで予定通りに進んでいけば、このにぬふあぶしが発送される頃には、ミッドリンク“元”所長になっているはずである。仕事から離れて一時休憩に入っている。

自身の活動をして、ゲリラ戦、あるいは「無差別支援・直接援助」の「なんでも屋一」と称してきた平田氏は、2021年の始めの頃、突如、「ミッドリンクは社会的役割を終えた」として、その活動の年内解散を宣言した。

ミッドリンクは、一般的な地域活動支援センターⅢ型の枠を超え、ホームレス支援、変な人支援など、地域における多様多彩な「困りごと」の対応を続けてきた。
(2ページへ続く…)



公的な支援の対象になりづらい、いわゆる「制度の狭間」にあるような人たちと、徹底的に身近に向き合うことを行なってきた。経営的なことをいえば、地活Ⅲ型を続けるよりも就労B型などの福祉サービスに鞍替えしたほうがはるかに潤ったはずなのだが、そうすると他のB型や日中型サービスを利用している人には使えなくなってしまうし、利用料個別給付の仕組みによって利用者／非利用者の境はより鮮明になる。孤立と分断が想像される。だから現在に至るまで、あえて地活という形態にこだわってきた。

東日本大震災に際しては、平田氏は被災地に赴いてのボランティア活動にも従事している。もちろん誰に頼まれたわけでもなく、対象を選ばないその活動は氏の信念を一貫して伝えるものだが、ただその信念を支えるものがないのか、実を言うとまだゆっくり話を聞けていない。

『アルケミスト』も、諦めるか諦めないかの物語とも言える。数々の試練と迫られる選択にあたって、宝物をそれでも追い求めるか途中でやめてしまうかを私たちは見守ることになる。羊飼いの少年を導く天啓は、実は彼自身の「心の声」である。(物語のなかで一度だけ、少年は王様からもらった魔法のアイテムで先行きを占おうとするのだが、ウリムとトムミムと呼ばれるその二つの石のお告げは結局、少年に明快な針路をもたらしはしなかった)



「心の声」があっても、それに従い続けることは我々にとってたいてい難しい。途上、声を見失うことがしばしばある。それで福祉界限でも「意思決定支援」とか「欲望形成支援」とか、障がい当事者が人生を主体的に歩むための関わりがあり方が議論されるわけだが、先だってまず「支援者」と区分される側の人間が自身の主体性としっかり向き合えていなければ、いかなる旅も始めることはできない。

平田氏とミッドリンクは間違いなく、沖縄市の街角から「心の声」と真摯しんしに向き合い続けてきた。

8月1日～

リニューアルオープン

QSK（にぬふあぶし）1997年9月18日第三種郵便物承認 通巻7606号
2021年9月3日発行（毎月1,2,3,4,5,6,7がつく日）

(3)

good morning

グッドモーニング

那覇市地域生活支援センター

年中無休

朝9時～夜7時

土日祝日も開いています

地域活動支援センターとは？



地域活動支援センターは、精神に障がいのある方々が、その有する能力及び適性に
応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援する施設です。
センターでは、創作的活動・生産活動・社会との交流促進などの機会を提供してい
きます。精神保健福祉士などの専門職スタッフがおり、困りごとの相談や地域の医
療機関・支援機関等との連携といったサポートを行います。また、地域住民ポラン
ティアの育成や啓発などの活動も行っています。

〒902-0077

沖縄県那覇市長田1丁目24-27 長田第二メディカルビル
那覇市地域生活支援センター グッドモーニング

098-836-0878

goodmorning@oneness-g.com




■ アクセス

〒902-0077 沖縄県那覇市長田1丁目24-1



 **バスをご利用の場合**
那覇バス「沖縄大学前」下車徒歩2分

 **モノレールをご利用の場合**
「安里駅」徒歩24分

 那覇市在住の方なら無料でどなたでもご利用できます。(*一部実費負担あり)

 那覇市外の方も無料でご利用できますが一度ご相談ください。

担当:川嶋・位田

皆様のご利用お待ちしております





沖福連 家族大会 2021

オンライン (Zoom を活用)

10.23 (SAT) 14:00~16:00



<発表者> こどもぴあメンバー
& 坂本将吏 (NPO 法人はじめました。)

『ハピンちゅ OKINA 輪』事務局の坂本将吏さんは、作業療法士の知識と経験を活かしながら、『侍学園すくおーら・今人』、『OKINAWA 若者みらいデザインプロジェクト』他、複数の法人スタッフとして県内外で若者支援に奔走しています。

<内容>

- ・オープニング
- ・こどもぴあの紹介
- ・精神疾患のある親を持つ
子どもの立場の体験談
- ・トークセッションなど



こちらの QR コードからも申し込めます



<対象> 興味・関心がある人ならどなたでも <参加費> 無料
<申込> Google フォーム、もしくはメールで (名前・連絡先: TEL/メール・立場・期待していること)
sienn0804@yahoo.co.jp <申込締切り> 10/20 (水)

<問い合わせ連絡先> 沖福連 098-889-4011 (増山、比嘉)

寄付等のお願い

家族大会は無料でご参加いただけますが、沖福連はみなさまからの寄付金や賛助会費によって支えられています。用途のかぎられる委託事業費や補助金などに対して、寄付金は団体にとって、活動の自由を担保する重要な資金源となります

ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

(寄付等は、沖福連のホームページや右の QR コードから)



「みんなねっと精神科医療への提言」

Part2

295号のパート1に引き続き、みんなねっとの提言をご紹介します。

2. 精神科医療の一般化の実現

精神科における「人員配置の基準と診療報酬を一般診療科と同等にする」こと、「精神医療審査会の人権擁護機能の充実」、「意思決定支援の充実、インフォームドコンセントの徹底、更にはSDM(共同意思決定)の実現」ということを求めています。

① 本来であれば、他科よりも手厚い人員配置を必要としてもおかしくない精神科の治療ですが、現在は「精神科特例」として、一般診療科よりも従業者を少なくしてもよいという規定があります(救急病棟を除く)。この特例を廃止すること。

② 次に、身体拘束や隔離等の行動制限を必要最小限にしていくこと。精神医療審査会の人権擁護機能を充実させ、審査会へ当事者と家族が参画できるようになること。

③ 精神科治療において、意思決定支援がなされ、インフォームドコンセントに基づき、医療者と患者とが対等に話し合いながら治療法を選択、決定していくことのできる仕組み作り。これらを求めていくとしています。

Check!

①の精神科特例については、医労連が2017年の時点で既に、国内精神科における地域移行を阻害している要因であるとして、撤廃を含める提言を発表しています。

特例では、入院患者に対して少ない職員数でよとするかわりに、診療報酬も一般の病床より低く設定されています。少ない人数で大勢に対応していくことになる状況が、②の人権擁護機能の劣化や、③の意思決定支援の阻害を招くケースがあるとも言えるのではないのでしょうか。(増山)

次回は、提言の3以降を紹介する予定です

◎編集後記◎

沖福連へ入職して数年。こんなことを言っているのか・・・。
今回初めて『にぬふあぶし』の編集をさせて頂きましたー
ー!!!一人でも出来ない。
ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。



編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長 山田 圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1
てるしのワークセンター内
電話 098-889-4011 FAX098-888-5655
E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp
発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0044
福岡市博多区千代 4-29-24 三原第3ビル 3F
電話 092-753-9722 FAX092-753-9723
定価：10円(会費に含まれる)